

獄中の15名の同志早期奪還へ!

カンパを訴える!

日雇全協組織解体攻撃粉砕!

昨年11月3日から東京・山谷で始った、天皇主義右翼・皇誠会―暴力団西戸組との実力闘争はもう4ヶ月目を迎えようとしている。

日雇全協は山谷支部・山谷争議団を中心に全国現闘団を組織し、寄せ場への登場を許さず、山谷労働福祉センター前に拠点を置き、実力対峙しています。この間、警視庁―浅草署は、47名もの仲間を大弾圧し、12名起訴という前代見聞の組織解体攻撃に出てきています。また名古屋笹島支部・笹島日雇労働組合に対しても対行政闘争の先頭で闘っていた組合員・支援4名を逮捕し、3名起訴というまさに日雇全協つぶしを行ってきています。日雇全協は獄中に四大寄せ場各支部の指導的仲間を大量に奪われながらも、83―84越冬闘争を勝利的に完遂し、春期攻勢の準備に入っています。

70年代初頭、山谷現闘委―釜共闘は、労働現場での地元暴力団や暴力手配師、人夫出しの強制労働―強搾取を血みどろの実力闘争で打倒することにより、山谷―釜ヶ崎の主導権を労働者の手にとりもどし、この成果は現在日雇全協各支部に引き継がれています。

全ゆる差別と闘い、国際主義の旗の下に「帝国主義と対決する下層からの推進翼」を指す創建3年目を迎えようとする我日雇全協に対し、日帝国家権力は、天皇の名の下に差別―排外主義を煽りつつ右翼ファシストを先兵に、全協―闘う寄せ場労働者の主導権を解体壊滅し、右翼―ポリ公―行政一体の暴力支配を固めようとしています。

天皇主義右翼―皇誠会・西戸組の山谷への武装登場は、中曾根の行革攻撃、刑法改悪・保安処分新設、拘禁二法上程策動などと期を一にしており、失業と飢えにさらされている寄せ場日雇に対して、戦争への下積み先兵になるか、或いは、死か、の択一の強制が始った事を示しています。

我々、日雇全協釜ヶ崎支部・釜ヶ崎日雇労組・争議団は、自らの生命、組織、階級性を賭け、総力戦で天皇主義右翼と闘う決意です。

日帝の「85」体制に向けた寄せ場支配再編を地域の階級的労働運動との結合を軸に打ち破り、全国労組連の闘う仲間との階級的団結を築き上げ、そして差別排外主義との闘いを、障害者、被差別部落民、在日朝鮮人等全ての日帝の反動と闘う仲間との共同闘争で打ち砕かねばなりません。

全国の闘う仲間みなさん!

15名の獄中の仲間の早期奪還と、天皇主義右翼皇誠会―暴力団西戸組との闘いの勝利のため圧倒的なカンパを訴えます。

一、釜支部へ「五〇〇万カンパ」を!

一、15名の保釈金一時借用―一審結審後全額返済します。

一、闘争(公判と現闘団の闘いの維持)資金カンパ―返済なし。

一、闘争に対する賛同人(個人・団体署名)

以上訴えます。

★第一次集約―84年2月10日

全国日雇労働組合協議会

釜ヶ崎支部

釜ヶ崎日雇労働組合・争議団

〒557大阪西成区萩之茶屋二―五―二三

釜ヶ崎解放会館内

電話〇六―六三二―四二七三

釜ヶ崎日雇労働組合・弾圧対策部

振替銀行

富士銀行萩の茶屋支店794966

釜ヶ崎日雇労働組合

代表 山田 実